

被災地の方々の言葉からわかったこと、学んだこと

今回私は 2015 北上 FS に参加した。NPO PARSIC さんのお世話になりながら宮城県石巻市北上町を拠点に、にっこりサンパーク仮設住宅団地の施設をお借りしてそこに宿泊し、1 日目は被災地の視察ツアーに参加し、2～3 日目にはわかめの茎抜き作業のお手伝いをした。4 日目には、にっこりサンパーク仮設住宅団地のお年寄りの方々や子供たちを招いてイベントを行った。イベントではドライフラワーづくりやお菓子（ずんだシェイクやずんだパンケーキ）を企画し、成功を収めることができた。夜には「語り部」というイベントで、被災者の方々が東日本大震災当時の様子を語って下さったことも貴重な体験だった。

今回の北上 FS での経験で一番心に残ったことは「被災地の方々の言葉から分かったこと」である。

例えば、にっこり農園は比較的山奥にあったのだが、そこから下っていくとあたり一面草むらの場所が広がっていた。にっこりの方々と一緒に付近を歩いている際「ここ一面草むらだけどもんな住宅地だったんだ」「ここあたりが我が家だったんだよ。このあたりが玄関だった」とお話ししてくれた。非常に胸が痛む話ではあったが、初めて被災地に訪れた自分にとって（新しい土地に来たものにとっては当たり前だが）今見える景色と震災前の景色との相違に気づくことや、それをイメージすることができた。その流れで、震災前の河川の状態やどの場所まで河川があったのかということも教えていただいた。つまり、被災地の方々の言葉で初めて震災前の風景というもの、被害の大きさをリアルにイメージすることが出来たのだ。

また、にっこりの方にある場所へ送迎してもらっている際に、「(車の中から見える盛り土をみて) 新しく道路をつくるために盛り土だよ。でも道路より先に住まいとかもっと力を入れてほしいところがあると思うんだけどね」とおっしゃっていた。

このようなことがあったので、語り部の際に「行政へ被災地の方々がもつ要望、お願い、不安などがきちんと伝わっている実感があるか」という質問を投げかけてみた。そして返ってきた答えは「NO」だった。実際に被災地の方々の要望などが伝わったのは、震災が起こってから一週間くらいの間だけだったらしい。生活のために「これが足りない、あれが欲しい」という要望をボランティアの人たちに話すと、数日後には避難所に届いていたそうだ。しかしながら、それ以降は要望が通らなくなったどころか、そもそも行政などへ意見、要望を直接伝えるような機会自体無くなってしまったという。これで被災地の方々にきちんと寄り添った「被災地の復興」というものができるのだろうか。

語り部の方いわく、実際にこんなこともあったそうだ。ある仮設住宅が完成した当時、そこで暮らし始めた人たちから「仮設住宅の天井から雨水が止まらない」という苦情が絶えなかったことがあったそうだ。仮設住宅の天井に何かしらの問題があったのだ。しかし、問題なのはこの後だ。この雨水が止まらないという構造になっているという苦情がきちんと行政に届かなかつたために、そのあとまた違った場所新たに作られた仮設住宅でも同じようなことが起こってしまったのだ。

また、わかめの茎とりのボランティアをした際にも、わかめ販売のためのさまざまな施設などが整い販売も始めこれからだというときに、施設の一部がある土地を新たに新設することになった復興住宅地のためにその土地を利用すると行政に唐突に話されたらしい。「こちら側の意見もきいてくれない。あらかじめ復興住宅地をつくることを計画し、伝えてくれていればそこに当たれしく施設をつくることもなかったのに」とボランティア先の方々は悔やんでいた。

つまり、被災地の方々の言葉から今の被災地の現実、復興の進行の仕方を感じることもともにいかに今行政と被災地の方々の意思疎通がなっていないかを知ることができた。

そして、今回の FS の中でもっとも勉強になった言葉がある。「足を運び続けることに意味があるんだよ」というものだ。自分にとって一番考えさせられた言葉であった。最初この言葉をきいたときは正直ピンとこなかった。しかし、FS という機会で被災地に実際に足を運び被災地というもの向き合ってみると、いい悪い関係なく「日に日に徐々に変わっていく様」「復興の進み」「今復興の問題」などを感じることができる。これはテレビニュースなどで得ることは決してできるものではない。実際に被災地に足を運び五感で今の被災地の現状というものを繰り返し触れることで得ることができるものであり、現地の人々の生の声から得られるものである。

そして、足を運び続け「被災地の復興」を感じることで、これから自分の住んでいる場所やそのほかの日本の場所でもし大きな災害が起こったときに、きっと何か生きることがきとあるはずである。自分なりに FS を通して「足を運び続けることの大切さ」を学ぶことができたと思う。